授業科目　吃音演習

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	言語
長澤泰子	開講時期	前期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

<概要>
吃音の評価・診断・セラピーについて、実技演習させる。その過程において、吃音を持つ成人や幼児・児童・生徒に出会ったとき、①戸惑わない、②クライアント（親も含め）のニーズを知る、③吃音研究で明らかになっていることを伝達する、④実際にどもることなどを、ロールプレイや現実の場で実践する。

<学習目標>

1. 言友会など、吃音を持つ人たちのセルフヘルプグループの活動に役立てること。つまり当事者の土俵で勝負できること。
2. コミュニケーションの真の意味を理解すること。
3. 吃音の改善は話し方の改善だけではないことを知ること。
4. 面接場面での親とのやりとりや吃音を持つ人とのやりとりを恐れないこと。
5. セラピー理念の理解

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	オリエンテーションおよび「吃音」で学んだことの確認		
2	吃音を持つ人との出会いを計画する（言友会への参加など）		
3	吃音を持つ人との話し合いについて、発表しあい、意見の交換をする		
4	クラスの人数によって授業回数は変化する		
5	吃音の実習。ロールプレイで吃音を持つ人の役をすることと、宿題として実際の店舗などで買い物などをすることを行う。		
6	流暢性改善のために、必要なこと確認し、コミュニケーション態度の問題や自尊感情などに		
7	ついても話し合う。		

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	学童期の吃音指導	カールデルJr.（長澤泰子訳）	大揚社	1998年・1800円
	もしお子さんがどもったら.子どものどもりQ&A	どもりにかんするQ&A	言語障害児を持つ親の会	各300円
参考書				
その他の資料				

【評価方法】
①授業参加態度
②レポート提出状況

【履修上の留意点】
講義を聞くというより、積極的に演習に参加し、自ら疑問を持ち、その解決手段を模索することが望まれる。